

米国への移動が女性のセクシュアリティにもたらす影響

—メキシコ、オアハカ州のミステカー村落を事例に—

要旨

メキシコ - 米国間のトランスナショナルな人の移動についてはこれまで、社会的問題として両国政府においてさまざまに議論され、また多様な社会グループの関心を集めてきた。さらにとくに1980年代末からは、研究者の間でも、研究対象として頻繁に取り上げられるようになってきた。これは、1986年の米国政府による移民法の改正により、それまで季節労働者などとして滞在許可書を持たずに移動を繰り返していた移民たちが、米国で正規の滞在資格を獲得する機会を得るようになったことがその背景にある。この法改正をきっかけに、今まで「非合法」移民として米国に滞在していた多くのメキシコ人たちが合法移民の地位を獲得し、移動先に家族を呼び寄せ定住することが急増した。その一方でメキシコ人移民たちは、定住後も出身地との結びつきは、引き続き維持してきた。

メキシコにおける人々の米国への移動が常態化した今日、移動研究は、より複雑で綿密な分析を行う必要性に現在迫られており、なかでもジェンダー関係に焦点をあてた女性の移動に関する分析が重要性を帯びている。女性の移動研究でこれまで提起されてきた問題には、移動がジェンダー関係に与える影響、あるいは、ジェンダー関係が移動に与える影響といった、因果関係を強調する傾向をもつものが主流であった。しかしながら、ジェンダー関係と移動という二つの要素はむしろ複雑に絡み合い、他の要素と

も関係しながら、互いに影響し合うものとしてみるべきである。

本稿の目的は、トランスナショナルな移動経験をもつメキシコ・ミステカ女性たちのエンパワーメントを、セクシュアリティという側面から捉え、そこに直接または間接的な形で影響を与える様々な要因を考察することである。ここでは、メキシコ - 米国間を移動する、メキシコ、オアハカ州サンタ・セシリアの女性たちを事例として取り上げる。トランスナショナルな移動という特殊な文脈の中でセクシュアリティというテーマを取り上げることが、ジェンダー研究、特に女性の移動研究の分野においては、新しい試みといえる。人々のトランスナショナルな移動は、どのようにミステカ女性のセクシュアリティに直接または間接的な影響を与えているのだろうか？

この問いに回答するにあたり、本稿を次のように構成した。まず第一章では、女性の移動に関する研究の経緯を紹介する。移動研究の分野では当初、研究対象は男性であり、女性はその付帯的なものとして扱われてきた。だが近年ジェンダーの視点の重要性が認識されるなかで、次第に女性が独立した研究対象とされるようになってきた。第二章では、研究対象となる女性たちがおかれている状況を理解するため、彼女たちの移動空間——サンタ・セシリア（メキシコ、オアハカ州）とサンタ・マリア（米国、カリフォルニア州）——について概要を述べ、また出身地と移動先における女性のセクシュアリティに関する観念を紹介する。さらに、本研究で用いた調査方法の記述を行う。第三章では、女性たちに対して行った聞き取り調査の結果を、彼女たちのトランスナショナルな移動形態に従って四つに類型化し、性の初体験と性の実践における交渉能力がどのように変化したかを分析する。四つの類型とはそれぞれ、村に残った女性たち、夫と共に移動した女性たち、他の親族と移動した女性たち、そして単独で移動した女性たち、である。さらに、セクシュアリティの領域において、移動以外に女性のエンパワーメントに影響を与え得る他の要因を考察する。そして最後に、本研究のまとめを行い、将来の研究の展望を提示する。